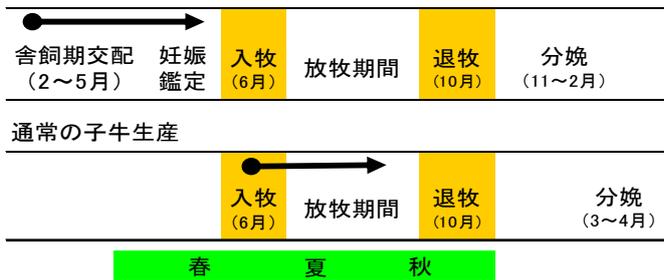


日本短角種の周年出荷へ向けた飼養管理技術

【1 成果の概要】

- (1) 放牧前に経産牛と種雄牛を混飼し、舎飼期の自然交配を行うことで、早生まれ子牛を生産できます(図1)。
- (2) 早生まれ子牛の7か月齢時までの体重の推移は、通常生まれ子牛のものと比較して、時期や放牧・舎飼期間の違いがありますが同等の成績です(表1、図2)。
- (3) 子牛の発育は、通常生まれ子牛と同等の発育で、補助飼料なしでも3か月早く肥育を開始することができます(表1、図2)。

舎飼期交配による子牛生産



注) ● → : 種雄牛と混飼している期間

図1 早生まれ子牛の生産方法

表1 生時から7か月齢までの平均体重の推移

試験区	平均体重			
	生時	3か月齢	5か月齢	7か月齢
A	35.8±2.6	118.0±14.3	160.3±16.9	197.7±24.8
B	39.1±2.5	123.3± 5.9	164.8± 8.9	210.8± 6.8
C	38.6±4.8	104.4±16.3	158.0±21.0	204.3±18.5
対照区	38.9±3.6	101.1±16.1	145.3±20.5	206.1±23.8
有意差	ns	ns	ns	ns

試験区	頭数	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8~10月	11月~
A	3	・12~1月分娩 ・畜舎で親子管理、母乳と乾草自由採食 ・離乳2週間前からフスマ0.5~1.5kg/頭を給与					離乳	・離乳後、フスマ1.5~5.0kg/頭		肥育(24か月齢まで)	
B	4	・12~1月分娩 ・畜舎で親子管理、母乳と乾草自由採食					離乳	・離乳後、フスマ1.5~5.0kg/頭		肥育(24か月齢まで)	
C	11	・12~1月分娩 ・畜舎で親子管理、母乳と乾草自由採食					親子で放牧管理			離乳、肥育(24か月齢まで)	
対照区	25	・3月分娩 ・畜舎で親子管理					親子で放牧管理			離乳、肥育(24か月齢まで)	

図2 早生まれ子牛の育成方法

【2 効果】

通常では3月に集中する分娩を分散化することにより、日本短角種の周年出荷につなげることができます。

【3 留意事項】

早生まれ子牛の生産のためには、放牧前に種雄牛と混飼する飼養管理施設が必要です。また、早生まれ子牛の増体は、育成方法により違いがないことから、管理やコスト面を考慮すると放牧を活用した方が良いです。

担当研究室

畜産研究所 外山畜産研究室 〒028-2711 盛岡市玉山区藪川字大の平 40 TEL. 019-681-5011 FAX. 019-681-5012